

## 若者目線 丹波の課題研究



研究した成果を発表する県立柏原高校インターアクト部員（丹波市柏原町で）

### 柏原でフォーラム

丹波地方の県立高校6校の生徒が大学生と協力しながら地域の様々な課題について研究した成果を発表する「丹波の森若者塾」合同フォーラムが5日、県立丹波の森公園（丹波市柏原町）で開かれた。

若者塾は2009年度に始まり、21年度は篠山風鳴、篠山産業、篠山東雲、柏原、氷上西、氷上高の生徒が神戸、関西、関西学院、福知山公立の4大学の学生のアドバイスを受けて研究した。

このうち、柏原高インターアクト部は柏原町内のユニバーサルツーリズムなど

について発表した。車いす利用者の観光マップを新たに作るため、昨年12月、JR柏原駅から同校までの通学路で1、2年生部員12人が自ら車いすに乗って段差やスロープの有無を調査。「スロープは下る際、スピードがあるので怖い」「車いすに乗る人、押す人がお互いに声を掛け合っただけ、状況を知らせることが大切だと感じた」などと語った。

発表後、1年の

さん（16）は「新たな気づきがたくさん得られて、勉強になりました」と話した。

読売新聞

2022年2月6日